

教育課程の方針

育成する人材像

グローバル化の進展に関連して地方の企業や自治体が抱える諸課題の解決に挑戦する優れたマネジメント・リーダーの育成を基本とし、そのために必要な国際的な視野と専門知識、事業の企画・運営に必要な実践的能力、及び語学力を伴う交渉力を備えた人材を養成する。

育成する高度専門職業人としての専門性

- 1) 国際的な視野の下で地域や自治体の取組みの方向性を提起し、牽引するマネジメント・リーダーシップ
- 2) 事業の企画・運営に必要な専門知識と情報収集、活用能力
- 3) 積極的に外国人との交渉を進めるために必要な、異文化受容性、コミュニケーション能力及びストレスコントロール力

入学者の受入の方針（アドミッション・ポリシー）

グローバル化の進展に関連して地方の企業や自治体が抱える諸課題の解決に挑戦する優れたマネジメント・リーダーを育成するため、次の方針に基づいた人材を求める。

- ア 地域や自己の所属する組織が直面する複雑な課題に、中核的な人材として主体的に取り組む意欲を有する人
イ 海外の諸地域や国際事情、および外国語に対する知的関心を持ち、積極的に情報収集を行う姿勢を有する人
ウ 異なる文化、また異なる業種の人々との交流をいとわず、互いを尊重しながら議論を交わす資質を有する人
エ ストレートマスターの場合は、社会科学と異文化理解にある程度の素養を持ち、相応の語学力を有するとともに、
上のア～ウの態度・資質を有する人

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

次の①から⑤までを身につけた者に学位〔国際地域マネジメント修士（専門職）〕を授与

- ① 国際情勢やグローバルな市場環境の視点から、地域の企業や行政上の課題の解決策を考察し、提示する力
- ② 事業や政策をめぐって新規の提案や改善提案につなげる際に発揮される企画力
- ③ 問題を発見し、計画策定、事業拡大に取り組むための専門知識や情報収集・情報活用能力
- ④ 事業計画の遂行のために必要なリーダーシップ
- ⑤ 異文化感受性と多様な思考に対する受容性を備えたコミュニケーション能力とストレスコントロール力

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- A 国際的な視野の下に、顧客ニーズおよび対象地域の法・慣習や市場、資源に関する情報を把握し、分析する力の修得
- B 外国語によるコミュニケーション能力を含む対人交渉能力・人的ネットワーク形成能力の修得
- C 事業や組織のマネジメントに必要な専門知識の修得とその実務への応用
- D 批判的思考や創造的思考を通じて事業や企画を構想・展開できる力の修得
- E 海外実地研修を通じて国際感覚の醸成と各自の目的に応じた履修科目の体験的な修得、および総括

(白 紙 ペ ー ジ)

福井大学「国際地域学部」(2016年度設置)の概要

— 県内の企業・自治体とともにグローバル化する地域の諸課題の探究と解決にチャレンジ—

地域の創生を担いグローバル化した社会の発展に寄与する人材を育成

興味関心に応じて科目を柔軟に選択履修できる仕組み(アプローチ)を設け、学生の主体的な学びと国際水準での教育を実現

学部・学科名	国際地域学部 国際地域学科
入学定員	60人
学位の名称	学士(国際地域)



今日のグローバル化された社会の抱える課題の多くは、国際・国内・地域という異なるレベルに共通に貫通する課題となっている。本学部では、地域のグローバル化として現れる事実を国際と地域との関係として捉え、グローバル化する地域社会の具体的な課題の探究と解決にチャレンジし、グローバル人材と地域再生活性化人材を一体的なものとして育成。

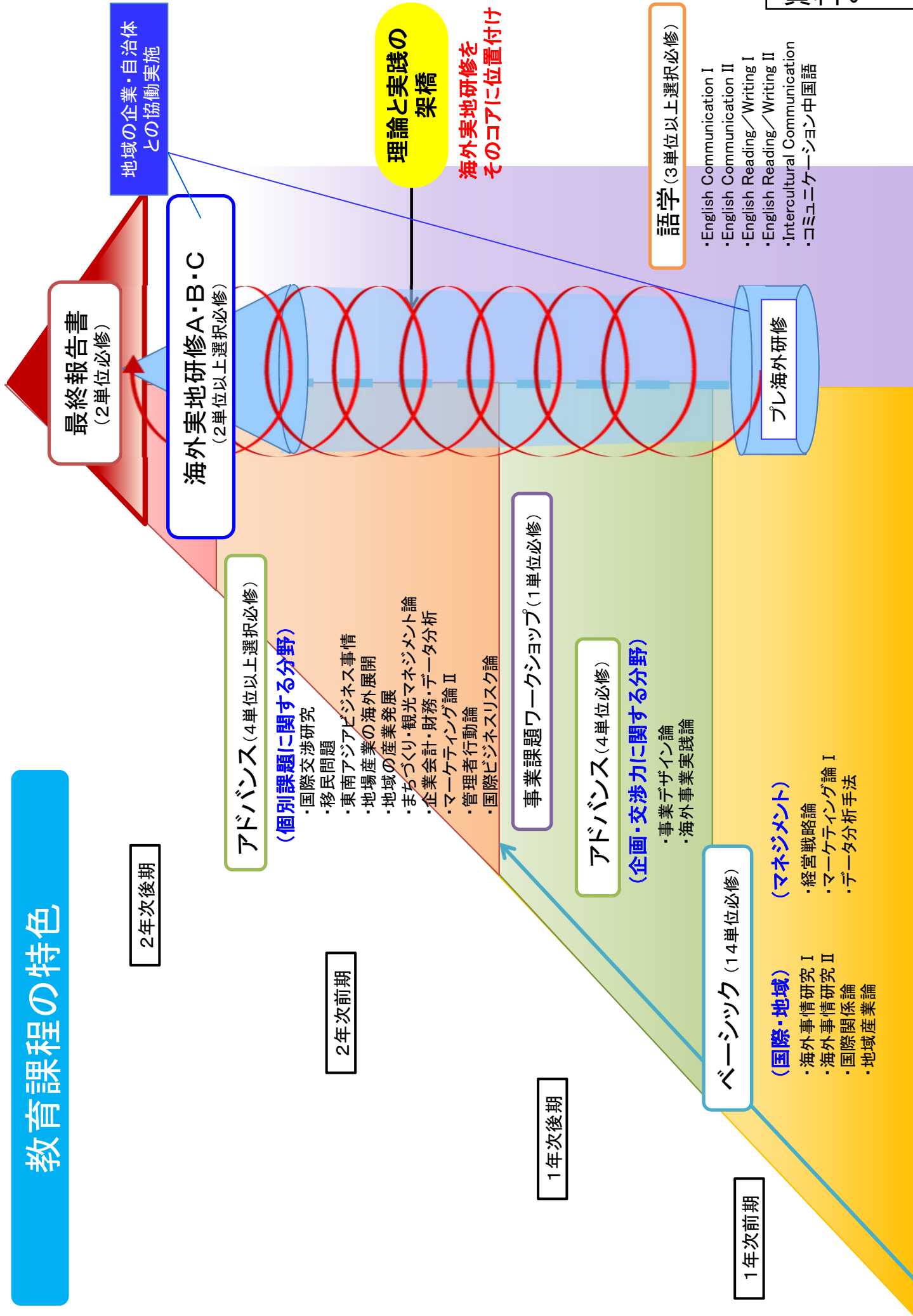
(白 紙 ペ ー ジ)

カリキュラムの全体像

科目区分	目的(位置づけ)	科目	開講時期	単位数	最低必要単位数	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー	
ベーシック科目	国際・地域	グローバル化という環境変化にさらされている地域の現状と課題を理解し、グローバルな思考を養うために、地域産業の現状および展望、海外諸地域の社会や文化の特徴、および国際情勢に関する基本的な知識を身につける	海外事情研究Ⅰ	原則として1年次前後期、土曜日2コマ連続で隔週開講	2	7科目 14単位 必修	A	①
		海外事情研究Ⅱ	2		A		①	
		国際関係論	2		A		①	
		地域産業論	2		A		①	
	マネジメント	自己の所属する組織の課題解決を図るために必要な、組織の現状分析および事業やマーケットの展開構想に関する基礎的な知識を身につける	経営戦略論		2		C	③
		マーケティング論Ⅰ	2		C		③	
		データ分析手法	2		A		③	
アドバンス科目	企画・交渉力に関する分野	ベーシック科目の履修で得た知識を踏まえて、新たな事業企画や事業構築を行う上で必要となる思考法と対外交渉に必要なさまざまな視点を身につける	事業デザイン論	土曜日2コマ連続で隔週開講、又は集中授業	2	2科目 4単位 必修	C・D	①②③
		海外事業実践論	2		A・B・C		③④⑤	
	個別課題に関する分野	ベーシック科目の履修で得た知識を踏まえて、自己の所属する組織の課題や院生自身の問題意識に応じて、グローバルな企業経営や地域活性化に関わる個別課題に取り組むための知識と方法を学ぶ	国際交渉研究	2	原則として1年次後期・2年次前期、土曜日2コマ連続で隔週開講、又は集中授業	2科目 4単位以上 選択必修	A・B	①④⑤
			移民問題	2			A	①⑤
			東南アジアビジネス事情	2			A・C	③⑤
			地場産業の海外展開	2			A・C	①③
			地域の産業発展	2			A	①③
			まちづくり・観光マネジメント論	2			A・C	②③
			企業会計・財務・データ分析	2			A・C	①③
			マーケティング論Ⅱ	2			C・D	②③
			管理者行動論	2			C・D	③④
			国際ビジネスリスク論	2			A・C	①③
	語学系科目	外国の顧客との取引、外国人とのコミュニケーションに一般的に必要な水準の語学能力を習得する	English Communication I	原則として1年次前・後期・2年次前期、平日夕方以降開講	1	3科目 3単位以上 選択必修	B	⑤
			English Communication II		1		B	⑤
			English Reading/Writing I		1		B	⑤
			English Reading/Writing II		1		B	⑤
			Intercultural Communication		1		B・C	③⑤
			コミュニケーション中国語		1		B	⑤

科目区分	目的(位置づけ)	科目	開講時期	単位数	最低必要単位数	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー
ワークショップ	ベーシック科目(マネジメント)や事業デザイン論の学習を踏まえて学習の成果の中間的な総括を行うために、具体的な事業課題の改善提案につなげる共同の模擬体験を院生全員で行う。	事業課題ワークショップ	1年次後期 (春季集中)	1	1単位必修	A・C・D	②③
海外実地研修	海外事業の体験的研修による国際的なビジネス感覚の修得、および調査活動やプロジェクト活動を通じた海外での主体的な課題解決の経験を主な目的とする	海外実地研修A	2年次夏季～後期 に実施	2	2単位以上 選択必修	A・B・C・E	①②③④⑤
		海外実地研修B		3			
		海外実地研修C		4			
最終報告	本研究科での専門的な学習、および授業の中での実践的な力量形成の成果を確認する	最終報告書		2	2単位必修	E	①②③④⑤
修了要件単位数					30単位以上		

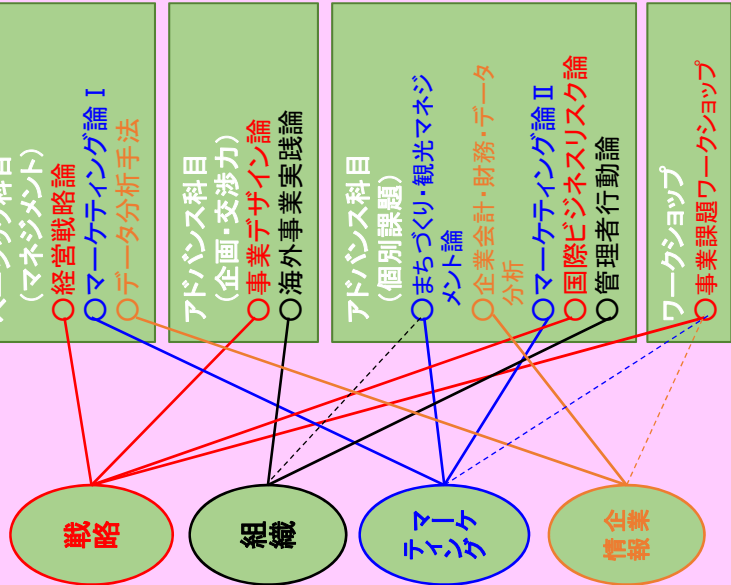
教育課程の特色



(白 紙 ペ ー ジ)

育成する能力と授業科目の連関一特にマネジメント能力、リーダーシップについて一

マネジメント能力、リーダーシップを育成するために必要な専門知識



カリキュラムは、授業科目の内容を目的別に整理すると、

- ・「地域と世界の現状と課題を知る」
- ・「マネジメント能力、リーダーシップを育成するために必要な専門知識」
- ・「語学力・コミュニケーション能力」の3領域から構成

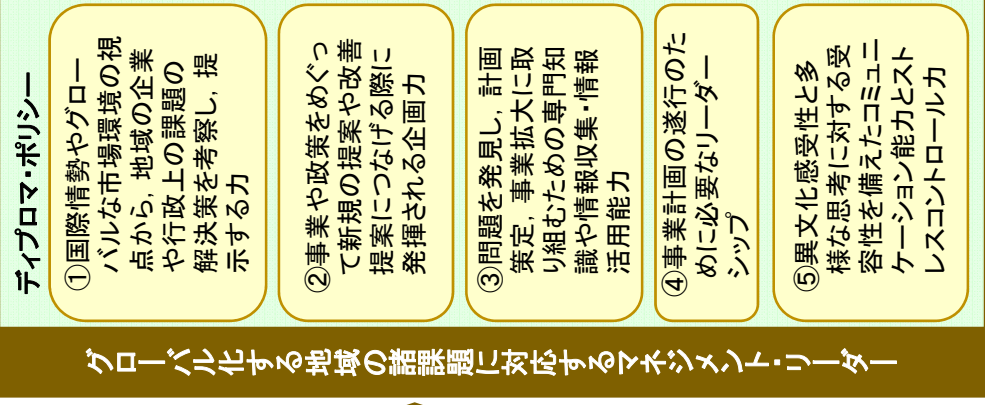
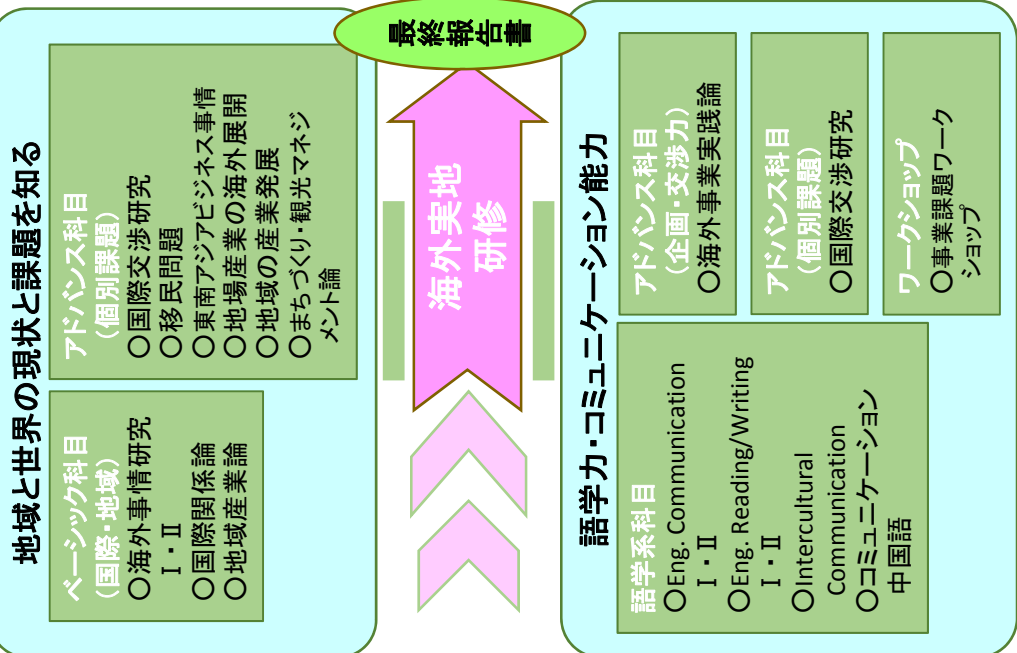
マネジメント能力、リーダーシップの育成に必要な専門知識は、次の4分野に整理し、それぞれの分野に必要な科目を配置。

A 戦略: 組織の内外的環境を把握し、取るべき行動をどのように選択、策定するか

I 組織: どのような組織を作り、どう運営していくか

U マーケティング: 誰に、どんな商品・サービスを提供し、どのような売り方をするか

E 企業情報: 組織に必要な情報をどう把握し、活用するか、カネの流れをどうするか



これらを海外実地研修での体験を通して磨き上げ。

(白 紙 ペ ー ジ)

英語教育のイメージ

1 英語能力の水準の目安 ※1

大学院入学時	海外実地研修着手時	大学院修了時
TOEIC 450点以上 TOEFL 450点以上 CEFR A2	TOEIC 550点以上 TOEFL 480点以上 CEFR B1	TOEIC 600点以上 TOEFL 550点以上 CEFR B1

2 入試

- 海外／英会話に興味と勉強する意欲があり、目的意識を持って取り組む姿勢があるかを書類・面接で確認

3 履修方法

入学前(検討中)

在学中

入学前英語特別クラス開講 (有料)

選択必修科目

English Speaking／Listening
English Reading／Writing

English Communication I
English Communication II
English Reading／Writing I ※2
English Reading／Writing II
Intercultural Communication

※1 在学中に、TOEIC等の外部テストを複数回受験する。特に海外実地研修手前には、対応できる英語能力を有しているか外部テストで確認する。

※2 一定の英語能力を持つものは、既修得扱いとする。

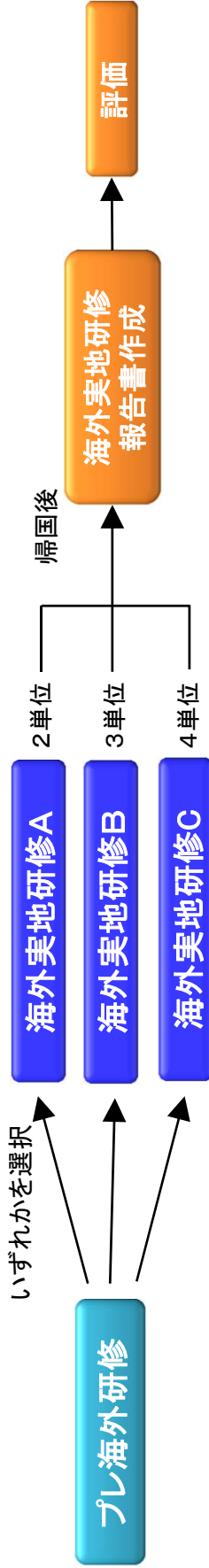
4 海外実地研修着手時の水準の目安

	TOEIC	TOEFL	CEFR
海外実地研修A	550以上	480以上	B1
海外実地研修B (JICA)	550以上	480以上	B1
海外実地研修C (ユネスコ)	800-900	600以上	C2

※3 英語能力が海外実地研修着手レベルに達しない者は、派遣を延期し、水準に達するよう必要な英語科目を再履修させるとともに、個人的な学習を保障するため、学内のLDC(言語開発センター)を利用した学習を勧める。

(白 紙 ペ ー ジ)

海外実地研修の詳細



(概要)

通常の授業での学習内容を、海外での事業経験と結び付けて理解することを意識させるために1年次前期に「プレ海外研修」を実施する。さらに学習内容を院生個々の問題意識に即して磨き上げるために2年次後期に「海外実地研修A」(2単位)、「海外実地研修B」(3単位)、「海外実地研修C」(4単位)を選択履修する。海外事業の体験的研修による国際的なビジネス感覚の修得、および調査活動やプロジェクト活動を通じた海外での主体的な課題解決の経験を主な目的とする。

「プレ海外研修」イメージ

(プレ海外研修の概要)

本研究科での科目の履修に着手する前に、海外の状況や海外事業を肌で感じるために、1年次前期に1週間程度、福井県内企業が進出する複数国の海外事業所等数カ所を見学などとする。これにより、海外での事業経験の浅い院生への学習の動機づけとなるいっぽう、ある程度海外事業の経験のある院生にとっては、異業種での事業体験を得る機会となる。

アジア複数国の見学・ヒアリング

<一般の院生>

海外での事業で考慮される諸事項を知ることを目的として、アジア2~3か国の進出事業所での各2時間程度の見学・ヒアリングツアー実施(教員がツアー・コンとして同行)

例: ベトナム(フクビ、日華、JETRO事務所) + 三谷産業、第一ビニール) ⇒ タイ(セーレン、福井鋳螺、県BBC or JETRO)
⇒ カンボジア or マレーシア or シンガポール

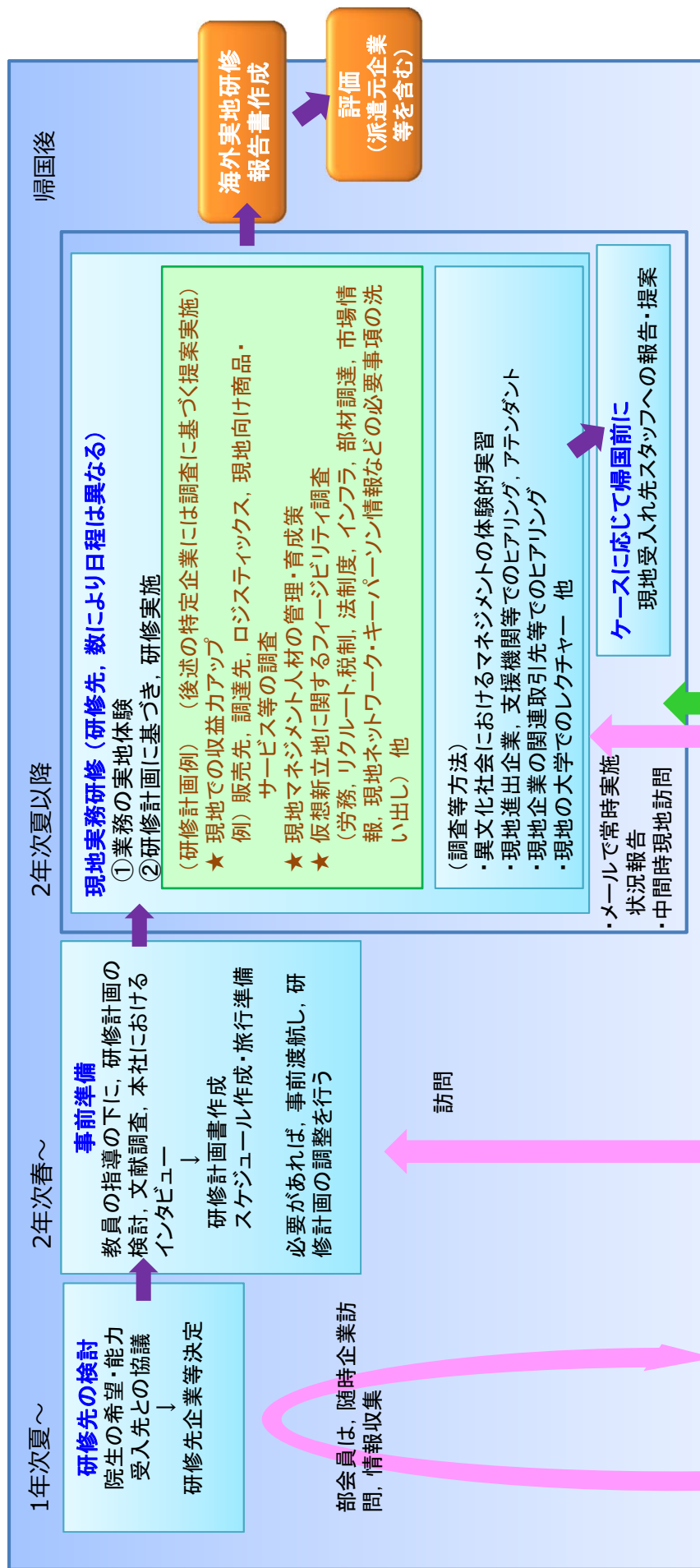
接 続

海外実地研修A・B・C

「海外実地研修A」イメージ

<概要>

学習成果を実地に即して振り返り、所属組織での事業展開に貢献できる能力を磨くために、2年次の夏季以降に3～4週間の海外での実地研修を行う。この研修では、福井県内企業の海外事業所や海外出先機関等において、1力所ないし複数個所の当該研修先や関連取引企業、政府系関係機関等で、①業務の体験、②院生が事前に設定した特定のテーマ(現地での市場開拓や事業所進出、外国人材のマネジメント、進出先での業績向上など)に即した調査、のいずれか、または両方を実施する。



教員(うち1名を実施責任者兼コーディネーターとして配置)及び事務系の職員

海外実地研修コーディネーター部会

構成員: 実務家および研究者教員(8名程度)

(事務職員の参加)

- 業務: ①プレ研修の実施計画作成
②院生の個別研修計画作成のサポート
③研修実施状況の共有
④企業訪問、情報収集、実施企業との連絡
⑤指導教員(正・副)の選定

院生の求めに応じ支援

本研究科における現地支援機関(当該国の交流大学、留学生同窓会、
可能なら現地のエージェントと期間契約)

全学的視点での海外支援拠点整備を将来的に検討
...当該研究科にとっては、JETRO等を通じて現地
企業等での研修を依頼することも可能になる。

(学内の他の海外展開事業・組織等との連携も検討)

「海外実地研修A」のパターン

(パターン1) 特定企業とその取引先企業での業務体験と院生の設定したテーマに関する調査・提案

(目的) 派遣国の文化・社会・商習慣の理解、海外ビでのビジネス手法の体得、習得した知識を活用した調査体験を通じて実務能力を高めるとともに、行動力、リスク回避力など長期の海外滞在に必要な能力を積み経験を積む。

(テーマ例)

- ・現地での収益力アップの調査・提案
例) 販売先、調達先、ロジスティックス、現地向け商品・サービス等の調査・提案
- ・現地マネジメント人材の管理・育成策の調査・提案

＜受入企業等＞
日本AMC(タイ),
H&F(タイorマレーシア),
KSTワールド(台湾),
SHINDO(仏or米国)

(パターン2) 複数国滞在・複数企業訪問型研修 (オーダーメイド・タイプ)

(目的) 海外での生活・海外進出する際に考慮する事項について、モデル的体験を行うことで、自社の戦略構想を踏まえて、各国の制度情報、市場情報、人的ネットワーク情報などを獲得し、事業展開に備える。

進出先が複数国のオプションとなることも多いので、現地事情の異なる複数の国での進出の必要事項を学ぶ体験を積む。
現地事情、進出のための必要事項を学ぶ一方で、自分のテーマに即した実地での調査のため、現地進出企業等でのヒアリング、もしくは実務体験を行う。

(テーマ例)

- ・複数国について進出プランを策定し、メリット・デメリット、進出条件等の比較分析
- ・フィージビリティ調査に必要な事項(労務、リクルート、税制、法制度、インフラ、部材調達、市場情報、現地ネットワーク・キーパーソン情報等)
(研修内容)・・・以下の組合せ

- ・現地事業所(2～3日) →
- ・同 (10日～2週間) →
- ・商談会、展示会(5～6日) →
- ・大学等でのレクチャー(1日) →

ベトナム(フクビ、日華、前田工織)、タイ(セーレン)、日華、福井鋳螺、フクビ、日本AMC、バンコクコマツ、H&F)、マレーシア(H&F)、インドネシア(セーレン、日華)、フィリピン(日華、日本AMC)、インド(セーレン)、台湾(日華、松浦、KSTワールド)

米国(SHINDO)、仏・独(SHINDO)、中国(シヤルマン、SHINDO)

福井県ビジネスサポートセンター(上海、バンコク)

アサプション大学他

「海外実地研修B」イメージ

海外実地研修B

- ◆JICAでのインターンシップ
＜企業研修とは異質の体験1＞

【概要】

主に海外経験がある程度ある院生を対象に、所属企業や自治体では経験できない海外で事業に取り組む体験を行い、新たな事業構築の際に必要な知識・経験とストレス耐性を身につける。具体的にはJICA 海外事務所において2か月間のインターンシップを行う。JICAの現地での各種支援プロジェクトの進捗管理を行う海外事務所員に同行し、パートナーである政府機関、企業、現地住民等、また技術支援員等との面談や打合せに参加することにより、海外での事業構築や運営のノウハウを体得する。

【目的】

JICAとの連携によるプログラムの実地体験を通して、国際協力・開発途上国への興味や関心を深めるとともに、自己の職場でグローバル展開に資する力量や人間力を高める。

【期間】 2年次後期、2か月程度

【研修構成】

- ①インターンシップ
JICA各国海外事務所で、2か月間、事務所の活動について事務所員に同行し、開発・支援プログラムの実際を体験し学ぶ。
- ②報告書の提出

JICAと本学の間で大学全体の連携覚書を2019年3月22日に締結。各人のインターンシップ内容に応じて、事業所毎に国際地域マネジメント研究科とJICAが覚書を交わす予定。

帰国後

海外実地研修報告書作成

「海外実地研修C」イメージ

海外実地研修C

- ◆高度な経営・国際実務研修(ユネスコ研修)
＜企業研修とは異質の体験2＞

【概要】

主に海外経験と相当の語学能力を持つ院生を対象に、所属企業や自治体では経験できない長期にわたる海外プロジェクトの運営に携わることで、新たな事業構築に取り組むためのチームワークとリーダーシップを身につける。

具体的にはユネスコの海外事務局において半年間のsponsored traineeship に取り組む。相当の語学力を有することが前提となるが、多国籍チームの中で議論し、事業を進める経験を得ることで、multilateral な交渉に対応できる能力を身につける。

【目的】

主に県内大手企業や自治体を対象に、地域、企業の国際化を進める上で、国際関係の仕組みを学び体験する中で(政策マイルドを培い)グローバルな事業活動を構築・展開する際の力量を高める。

【期間】 2年次後期、半年間
(パリ又は各国拠点事務所)

【研修構成】

- ①プロジェクトへの参加
- ②現地ナショナルチームとの共同調査の計画
- ③大学院教員との中間的ミーティング
- ④現地ナショナルチームとの共同調査の実施
- ⑤共同調査によるデータの収集、分析
- ⑥プロジェクトの報告

個別の派遣毎に協定及び契約を締結する予定。

帰国後

海外実地研修報告書作成

各海外実地研修のプロセス、院生の指導スケジュール

年次	時期	内容
1年次	4月	(上旬) オリエンテーション (履修・学修指導) ◆ 海外実地研修コーディネーター部会 (以下「実地研修C部会」) による個々の具体的な履修指導, プレ海外研修の実施計画の説明 (中旬) 年間受講計画提出
	7月	(上旬) プレ海外研修実施
	8~9月	実地研修C部会 ◇ 院生個々の指導教員選定, 最終報告書にまとめるテーマの決定, 海外実地研修先の検討開始 (上旬) ◆ 海外実地研修A・B・Cの希望者募集 (Cは海外経験と相当の語学力を持つ院生が対象)
	12月	(下旬) 実地研修C部会 ◆ 実地研修C部会はJICA研修に係る情報収集, 研修先候補地の検討 ◇ 海外実地研修事前準備開始 ◇ 海外実地研修事前準備開始
3月	(ここまでに英語外部試験最低2回受験)	
2年次	4月	(中旬) 年間受講計画提出 ◆ JICAの募集一覧から研修先を選択・応募。 ◆ 実地研修C部会がJICAと研修先候補地等について事前調整 (中旬) 年間受講計画提出
	6月	◇ (中旬) 計画書・スケジュール作成, 渡航準備開始 ◇ JICAからの採択通知 (研修先決定) を受け, 研修スケジュール作成, 渡航準備 (ここまでに英語外部試験最低1回受験)
	8~12月	(8月~12月) 海外実地研修B実施 (2ヵ月) ◆ 指導教員は, 院生から送られる週毎の活動報告をメールやスカイプ等で確認し, コメントを送る等の指導を行う。それを実地研修C部会と共有。 ◆ 中間時での指導教員の研修先訪問と研修の成果や調査計画の調整, 研修指導。
	8~12月	(8月~12月) 海外実地研修A実施 (4週) ◇ 帰国後, 海外実地研修報告書指導・作成提出 ◆ 実地研修C部会の評価 ◇ (12月中) 最終報告書作成着手・指導
1月	◇ 指導教員の下で最終報告書作成 (提出までに数回面談, メールで指導)	(12月研修期間中) 海外実地研修報告書及び最終報告書作成着手・指導 帰国
2月	◇ 指導教員の下で最終報告書作成 (提出までに数回面談, メールで指導)	(1月~2月上旬) ◇ 海外実地研修報告書・最終報告書作成 (提出までに数回面談, メールで指導) (下旬) ◇ 海外実地研修報告書と最終報告書を併せて評価, プレゼン・審査
3月	修了判定 (研究科委員会)・修了式, 学位授与	
区分	海外実地研修A (企業等の海外展開先)	海外実地研修B (JICA)
		海外実地研修C (ユネスコ)

注) 表中, ◆は指導教員の指導等を, ◇は指導教員のサポートを得ての院生の対応を, それぞれ示す。

(白 紙 ペ ー ジ)

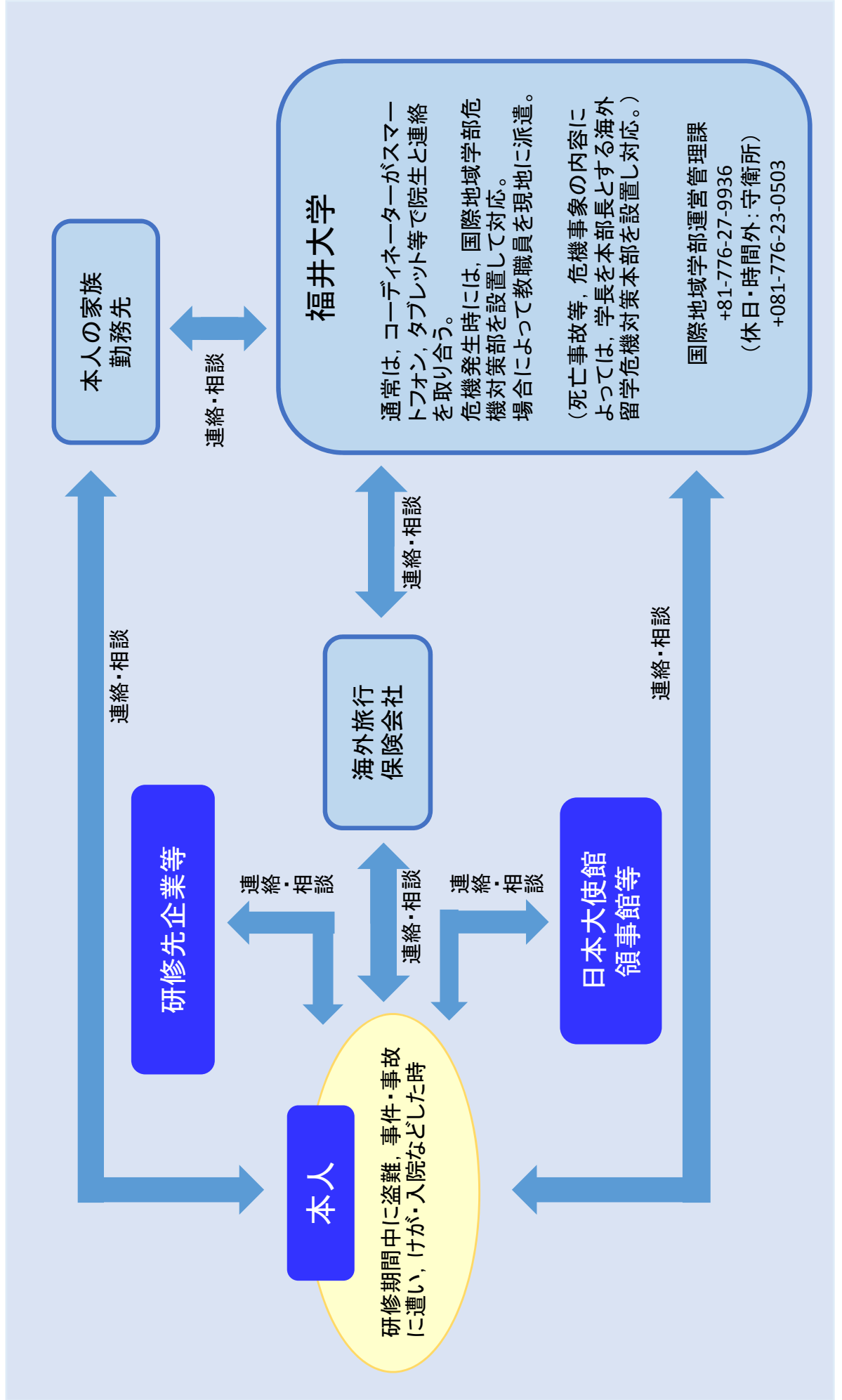
(海外実地研修 A) 国別海外実地研修受入れ拠点の状況

国名	研修受け入れ企業等	実際の研修場所	左記以外の協力機関
タイ	エイチアンドエフ H&F SERVICES (THAILAND) CO.,LTD.	バンコク	①交流大学 ・アサンプション大学 ・マヒドン大学 ・チュラロンコン大学 ②福井大学留学生同窓会タイ支部 ③ジェトロ バンコク事務所
	日本エー・エム・シー BANGKOK-AMC CO.,LTD	バンコク	
	(AMCの取引先) バンコックコマツ Bangkok Komatsu Co., Ltd. [BKC]	チョンブリー市	
	福井鋳螺 FUKUI BYORA (THAILAND) CO., LTD.	ラヨーン県	
	フクビ化学工業 TAI FUKUBI Co.LED	バンコク	
	セーレン Saha Seiren Co.Led.	バンコク	
	日華化学 STC NICCA CO.LED.	バンコク	
	福井県 ふくいバンコクビジネスサポートセンター	バンコク	
バトナム	フクビ化学工業 FUKUVI VIETNAM CO.,LTD.	ドンナイ省	①交流大学 ・フフリット大学 ②ジェトロ ホーチミン事務所
	日華化学 NICCA VIETNAM CO.,LTD.	ドンナイ省	
シマレー	エイチアンドエフ HZF SERVICES (MALAYSIA) SDN. BHD.	ペタリンジャマ	①福井大学留学生同窓会マレーシア支部 ②ジェトロ クアラランブール事務所
台湾	ケイ・エス・ティ・ワールド 台湾川崎半導体科技股份有限公司	高雄市	
	日華化学 台湾日華化学工業股份有限公司	桃園市	
	松浦機械製作所 台湾松浦機械股份有限公司	台中市	
中国	シャルマン Charmant China.Co.,Ltd.	上海	①交流大学 ・上海理工大学福井大学分室 ②福井大学留学生同窓会上海支部
	日本エー・エム・シー 上海湘農貿易有限公司	上海	
	セーレン Seiren Shanghai Co., Ltd.	上海	
	日華化学 日華化学研発（上海）有限公司	上海	
	福井県上海ビジネスサポートセンター	上海	
ンフラ	SHINDO SHINDO TEXTILE EUROPE GmbH	パリ	①ジェトロ パリ事務所
ドイツ	SHINDO SHINDO TEXTILE EUROPE GmbH	レムシャイド	
リアカメ	SHINDO SHINDO USA INC.	ニューヨーク州	①交流大学 ・クレムソン大学（木原氏）

備考：受入れ企業，協力機関等とは，追加も含め，継続協議中。

(白 紙 ペ ー ジ)

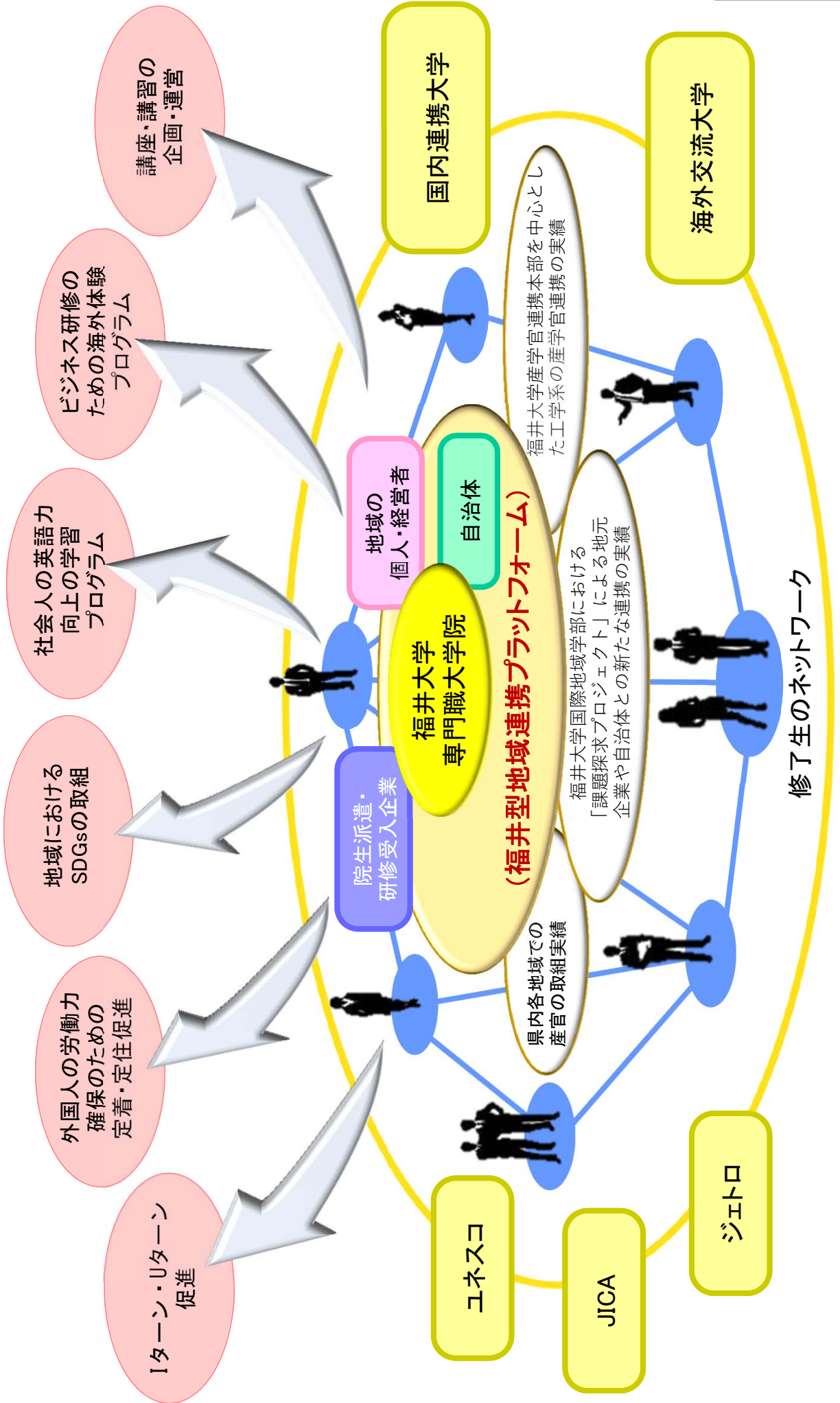
海外実地研修時の危機管理対応



(白 紙 ペ ー ジ)

交流・支援型から協働・課題解決型コンソーシアムの形成

学びと地域・企業の活性化のための恒常的な産学官連携体制（組織）の構築



(白 紙 ペ ー ジ)